

|              |   |
|--------------|---|
| Title        | デザイン理論 44号 投稿規程/執筆要領/編集後記/<br>奥付  |
| Author(s)    |   |
| Citation     | デザイン理論. 2003, 44, p. 182-183  |
| Version Type | VoR   |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/53251">https://doi.org/10.18910/53251</a> |
| rights       |   |
| Note         |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 「デザイン理論」投稿規程

昭和37年11月11日改正, 昭和60年11月8日改正,  
平成2年11月10日改正, 平成6年7月9日改正,  
平成14年11月9日改正

1. 内 容：デザインに関する未発表の論文, 研究報告等。
2. 投稿資格：本会員
3. 採 択：採否及び掲載号については編集委員会が決定する。
4. 査 読：学術論文については, 編集委員会が査読者2名に依頼する。査読結果は編集委員会が本人に通知する。結果は, (A)無条件採用, (B)条件採用, (C)不採用とする。  
査読期間は2ヶ月程度とする。
5. 執筆要領：別に定める。
6. 提出期限：基本的には随時。ただし, 学術論文は, 査読のため, 5月春号掲載希望は, 1月15日, 11月秋号掲載希望は, 6月30日を〆切りとする。  
学術論文以外は, これは投稿予告の期限で, 実際の投稿期限は, それぞれ3月31日, 8月31日となります。
7. 提出先：意匠学会編集委員会  
なお, 以上の規程は, 平成14年11月9日より発効する。

## 「デザイン理論」執筆要領

平成6年6月4日 編集委員会決定

1. 原 稿：  
原稿は400字詰め横書原稿用紙に横書きとする。  
ワープロで作成する場合は, A4大の紙に1行40字, 1頁30行程度で作成すること。査読論文の場合は最終原稿とともに, また, 研究報告等は原稿提出時に, フロッピー(機種, ソフト等を明記)も提出すること。いずれの場合も, 提出に際しては, コピーをとって手元に保存すること。  
また, 所定の割付用紙に割り付けを行なって, 原稿とともに提出すること。割付用紙は必要に応じて各自コピーすること。
2. 原稿の分量：  
分量は学術論文と研究報告はともに, 図版, 図表, 注などをすべてを含めて, 刷上りで, 14頁以内とする。(400字詰原稿用紙では約45枚である)。紙上発表は8頁以内, 発表レジメは2頁とする。
3. 原稿の構成：  
原稿には, 表紙, 本文, 注, および学術論文と研究報告には欧文(原則として英文)要約, キーワード, 目次を付すこと。  
表紙には, 表題, 著者名(ふりがな付き), 所属機関名を和文と欧文(原則として英文)で書くこと。  
欧文要約は, 刷上り1頁とする。語数は約200語。必ず, タイプライターまたはワープロで作成すること。また, できる限り, 当該言語を母国語とする人の校閲をえておくこと。  
キーワード(和文および英文)は, それぞれ5語以内とする。
4. 図・表のレイアウトなど：  
図版はモノクロームとし, 位置の指定, 大きさ, レイアウト, 必要なトリミングなどはすべて執筆者が行なうこと。レイアウトなどには学会指定の割付用紙で行なうこと。  
図版などの著作権の問題があると思われる場合は, 執筆者自身が事前に許可をとっておくこと。当学会は著作権についての責任は負わない。

## 編集後記

本誌第44号は、投稿論文も多く、また新たに大会のパネル発表の内容を掲載したこともあって、予想以上に充実したものになりました。

大会時にプレ大会として若手の研究者の発表機会が設けられるようになったこともあって、投稿論文の数が増える傾向にあります。今回も8件の投稿があり査読していただきましたが、1号分の掲載量として学術論文を何点掲載するのが適当かについて、編集委員会でも議論しました。5点ぐらいが適当かという線も出かけたのですが、結果的に査読で掲載可と判定されたものについてはできる限り掲載するという方針に決まりました。

パネル発表の要旨の掲載については、これまでの編集方針の不備といえるものです。副会長の太田先生の示唆があり、編集委員会でも了承していただいて、今回から掲載することになりました。私自身編集にかかわる機会が多かったのですが、何んとなく『デザイン理論』を文字中心のイメージで捉えてしまっていて、画像の形で発表に気が廻らなかったというのが実情です。編集委員としては怠慢であったと反省しています。かつて誌上発表という形式があったのですが、いつの間にか無くなってしまっていました。その理由が思い出せませんが、人選の問題とか、カラーでないと掲載する意味が薄いという消極的な理由もあったと思われます。今回のパネル発表の要旨掲載でも、白黒なので、本来のカラフルな発表内容を十分に伝えられず、問題は残ります。それでも大会において発表された作品について、記録的な意義も込めて副会長から発表者に掲載の依頼がなされ、ほぼ全員が寄稿して頂ける結果となりました。

誌上発表の復活とか、デザイン実践の形での研究発表の機会をどのように実現していくかが今後の検討課題になると思います。具体的なアイデアなどご意見、ご提案を編集委員会にお寄せいただければ幸いです。

(文責：渡辺 眞)

## 編集委員

|      |            |      |
|------|------------|------|
| 足立裕司 | 太田喬夫       | 榎 勝彦 |
| 榊原吉郎 | 佐藤敬二       | 並木誠士 |
| 橋本英治 | 藤田治彦       | 藪 享  |
| 横川公子 | 渡辺 眞 (委員長) |      |

---

## デザイン理論 44号

Journal of the Japan Society  
of Design, 44/2004

発行日 2004年5月30日

発行 意匠学会

事務局 〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科意匠学教室内

TEL 075-724-7603

FAX 075-724-7629

発行者

意匠学会 編集委員会

事務局 〒610-1197

京都市西京区大枝沓掛町13-6

京都市立芸術大学美術学部第3研究室群合同研究室内

TEL/FAX 075-334-2255

編集責任者 渡辺 眞

印刷所 (株)北斗プリント社

---